



林業遺産って知っていますか？

長野県林業総合センター 指導部 小山 泰弘

地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出されてきた日本の林業。
全国に残る林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録する試みとして、2013年度から日本森林学会が「林業遺産」を選定しており、2019年5月末日現在で、全国35件が選定されています。
今回は、長野県内で選定された林業遺産を紹介します。

2013年度選定

旧木曾山林学校



木曾町福島
木曾山林資料室
(毎週水曜日開館)

日本で最も古い林業の実業学校であり、当時の教科書や標本など、林業教育に関わる歴史的資料が所蔵展示されている。

長野県内の林業遺産

県内には、6カ所の林業遺産があり、全国一の選定数です。

木曾式伐木運材図絵

2015年度選定

長野市
中部森林管理局

昭和50年
林野弘済会
長野支部発行



江戸時代後期に行われていた伐木・運材の技術を紹介した上下2巻の絵巻物。
本物は長野市で保管されているが、昭和50年に書籍として刊行され、県内各地の図書館で見ることができる。

2017年度選定

旧帝室林野局庁舎



木曾町福島
御料館
(月曜休館)

昭和2年に再建された木曾谷一円の御料林を管理した旧帝室林野局木曾支局の庁舎。
平成22年に木曾町が取得し、新築時の図面に基づいて改修復元を行い、一般公開されている。
当時最先端だったアールデコ様式の建築意匠が随所にみられる。

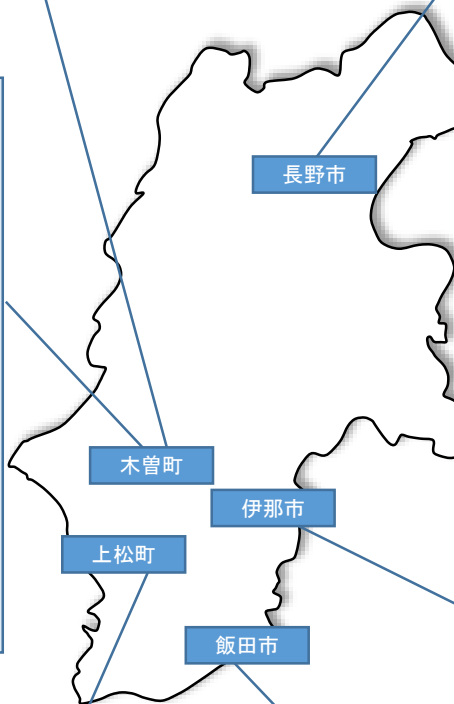
中村弥六と進徳の森

2017年度選定



伊那市高遠
高遠町図書館
・進徳の森

江戸末期に旧高遠町に生まれた中村弥六は、森林法の制定や林業教育の整備などに尽力し近代林学の父と呼ばれる。
中村弥六が農林省林業試験場から外国産樹種の苗を植えて整備した進徳の森が高遠町に残されており、地元の高遠町図書館には関連資料が保管されている。



木曾森林鉄道

2013年度選定



上松町 赤沢自然休養林ほか

大正時代から昭和40年代にかけて木曾地方で運用されており、木曾ヒノキをはじめと木材の搬出を行った日本を代表する森林鉄道の代表的存在。
王滝村と赤沢自然休養林で森林鉄道の復元が行われ、赤沢自然休養林では定期運行されている。

遠山森林鉄道

2017年度選定



飯田市南信濃
旧木沢小学校
「林鉄資料館」

本州で最後まで運行されていた森林鉄道。
地元有志によって当時の線路跡や軌道平面図をはじめとした運行当時の史料が保全され、機関車も運転可能な状態に復元されている。

林業遺産の今後

日本森林学会では、地域の振興に向けた象徴として、林業遺産の選定を続けていくことにしていますが、選定後の保存と活用に関しても課題があることが指摘されています。

注目度はまだまだ低い林業遺産ですが、山村地域の基幹産業である林業の価値向上に向けて有効な方法の一つとして、今後も積極的な活用を考えていくことが重要です。